

# 西山氏が

# 「能登の魅力」を語る

# 「能登國

# 1300年

# 民俗・歴史

# ロマン

# 第1回奥能登塾



石川県奥能登総合事務所と町おこしに取り組む有志らが呼びかけた「奥能登塾」が6月6日発足、第1回講座として珠洲市の西山郷史氏（日本宗教学会委員）が「能登立国1300年 民俗・歴史・ロマン」と題して講演し、史料に基づいて、来国立国1300年を迎える「能登國」の魅力を語った。

塾では、塾長を務める県奥能登総合事務所の前田正彦所長があいさつし、運営委員の星野正光さん（輪島市門前町・能登手仕事屋主人）が塾が発足するに至った経緯を説明した。塾には、官民を問わず、能登に関心がある人たちが集まり、講演に耳を傾けた。

西山氏の講演要旨は次の通り。

## 奥能登と口能登の定義 能登は大海川以北

本日は皆さんと認識を共有するため、言葉の整理をしていきたいと思えます。まず「奥能登」という言葉ですが、ご存知のように加賀藩がおよそ400年続きました。おそらく世界で400年間も民族的な争いがなかったのは、この時代だけだろうと思います。その時に石川県は、加賀と能登と分かれておりまして、能登の入り口の方を、昔の呼び方で言いますと、羽咋郡、鹿島郡（最初にできた時は能登郡でしたが）―この2郡を口郡と呼びました。そして、鳳至郡、珠洲郡を奥郡と言ったんです。それで、口能登、奥能登なんです。ですから、中能登というのは、元々なかったんですね。

それから、「能登」というのはどこか

ら能登なのか、ということですが、いろんな分け方がありますが、宗教的な世界というのは、そういうものをきっちり残しておりまして、真宗大谷派の能登教区、金沢教区と別れるところ、すなわち大海川という川で（能登と加賀が）分かれております。この川は、スタートがどこかと言ったら、三國山という山です。三國山ですから、越中、加賀、能登の三國の境にある山ですね。昔、山道を通った頃は、非常に大事な道でしたが、海岸に近い道を車が走るようになって、忘れ去られたようになっていきました。

この三國山から流れて来て日本海に注いでいるのが大海川です。（↓三國山については本誌96P（伝説の風景②）参照）

## 「能登はやさしや土までも」

江戸時代の歌（民謡）を近世歌謡と言いまして、七七七五の歌です。例えば